

特別講演

主催 卒後教育委員会

企画部署 医学教育センター

平成28年9月10日 於 本部棟1階第3講堂

総合医療センター管理棟2階カンファレンス3（テレビ会議）

国際医療センターC棟3階プレゼンテーションルーム（テレビ会議）

すこし先行く医学教育を求めて：米国とのダブルライセンス構想， 行動科学，入試変革（学士編入等）の取組み

和泉 俊一郎

（東海大学 医学部 産婦人科，附属病院 遺伝子診療科，臨床研修部 初期研修室）

講演内容

本講演は、平成28年度第6回埼玉医科大学医学部医学教育フォーラムの特別講演として開催された。本講演に先立ち、医学教育の質保証WGでの検討を引き継いだカリキュラム委員会より、今年度より1年生から開始された新カリキュラムの現状と、2年生以降の改革の展望について報告があり議論を行った後、和泉先生にご講演いただいた。

和泉先生は東海大学医学部附属病院にて産婦人科診療・研究に従事する傍ら、教育面では、卒前教育の中心である教育計画部部長を歴任、その後臨床研修部に移られて現在では初期研修を担当なさるとともに、日本医学教育学会の17期では、準備教育・行動科学教育委員会の委員長を担当され、そこで行動科学・プロフェッショナルリズム教育について様々な取組みをなさっており、そういったご経験をもとにご講演いただいた。

講演は、まず、18学部、77学科、4附属病院、種々の海外施設を誇る圧倒的なスケールの東海大学の紹介、次いで、医学部におけるプロフェッショナルリズム教育の意味、経緯について、言葉の語源、プロフェッション（専門家集団）と社会（クライアントの集団）との契約という観点から解説いただいた。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）については、早くから先を見据えた様々な取組みや海外施設の利用など東海大学ならではのお話もいただいた。

分野別認証評価との関係では、マイルストーンを含めたアウトカムの整備および臨床実習期間の延長について、2016年度から実施の新カリキュラムと対応させてご説明いただいた。その中で、クリニカルクラークシップ（CC）は、実はすでに1997年から4年生に導入するという先進的な取組みをなさっていたこと、ただし、それが共用試験の導入に伴い、5年生に移さざるを得なくなったこと、さらには皮肉なことに、国際基準を見据えた新カリキュラムでは再び4年生での臨床実習実施になったことについて、経緯の説明があった。

他の一歩先行く取組みとしては、1987年度から導入された学士編入の話も興味深かった。15名定員の頃は成績も良好であったが、2005年度に40名に増員後、成績等に問題がでるようになり、2014年度からは20名定員になっているとのことであった。2/3が文系出身であること、また定着率などに問題があることにも言及していただいた。

最後に、行動科学、プロフェッショナルリズム教育についてお話しいただいたが、低学年のみならず、臨床の実践の場で教育していくことの重要性も教えていただいた。なお、本学の行動科学のカリキュラムについては高く評価していただいた。

以上、東海大学の医学教育について先進的な取組みをご教示いただき、本学の教育を見直すよい機会となる素晴らしい講演であった。

（文責 土田哲也）